

はじめに

まず、これまでの出題概要と傾向をおさえておくと・・・

今回、基本テキストが絞られたため、『神社のいろは(続)』の比重がより大きいのが一つのポイント
『皇室』誌もあなどれない(コンスタントに必ず出題されるため、できれば落したくない)
長文問題も多いのが2級以降の特徴だが、今回はどうか。

(表1 これまでの出題概要)

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
『神社のいろは(続)』	42問	44問	50問	60問	60問?
『遷宮のつぼ』	43問	40問	—	—	—
『神社のいろは』	5問	10問	—	—	—
『神話のおへそ』	5問	—	11問	10問	—
『日本の祭り』	—	—	29問	—	—
『万葉集と神様』	—	—	—	20問	—
『神話のおへそ(古語拾遺)』	—	—	—	—	30問?
『皇室』誌	5問	6問	10問	10問	10問?

(表2 出題傾向)

出題傾向(『神社のいろは(続)』)

	第1章①	第1章②	第1章③	第1章④	第1章⑤	第1章⑥	第2章	合計
第2回	2	6	4	11	14	2	3	42
第3回	3	16	7	9	5	3	1	44
第4回	11	17	7	8	6	1	0	50
第5回	9	7	5	14	16	4	5	60
合計	25	46	23	42	41	10	9	196
出題平均	5	9.2	4.6	8.4	8.2	2	1.8	

第1章

- ①縄文～古墳時代の神道
- ②律令時代(奈良)
- ③平安時代
- ④中世(鎌倉～室町)
- ⑤江戸時代
- ⑥近現代

過去4回をみると、おおよそ奈良時代、鎌倉室町の中世思想、江戸時代の国学・神道思想の出題が多い。問題としては、196問出題済み。前回は中世・近世が中心に出題されたが、1章の①～⑥の各時代から2章にかけて均等に出题されたことが一つの特徴。

今回は古代方面に戻るか?それとも近世・近現代が出题の中心となるか?(『日本書紀』が神話のおへそで出题されるため)

とはいえども今回もこれまでの問題(過去問)をもう一度チェックすることから始めるべき

過去問はどれをチェックすべきか・・・3～4回目あたりの過去問(『神社検定問題と解説』扶桑社)をチェックしては?

●『神社のいろは(続)』

各トピックをうまくとらえるためには

=必要な事項を数珠つなぎで覚えていくためのイメージをどう膨らませるか

これまでの2級の検定試験

…文章が登場して其の中から、穴埋め、文字に下線が引いてあり、その内容について、四択あたりで問う問題が非常に多い
単独の問答式はあまりない。過去問では間違い探しも多いが、出題傾向を変えてくる可能性も。

例) 昨年の2級 奈良時代の神祇制度について問うている問10～問12をみてみると……

天武天皇とお祭りのことについて書かれた以下の文章を読んで問10から問12までの設問に答えてください。

天皇即位に際し行われる特別の大嘗祭のことが初めて『日本書紀』に見られるのは天武天皇の御代です。大嘗祭とは天皇が即位後、斎行の年を決められて行われる特別の[ア]です。大嘗祭では、[イ]による[ウ]両地方から新穀が献上されますが、天武天皇の御代には恒例の[ア]でも[ウ]から新穀が献上されていますので、制度上、大嘗祭が確立されたのは持統天皇の御代からだったと考えられています。律令制下の恒例祭祀のひとつである祈年祭の骨格を作られたのも天武天皇の御代だったと考えられています。また、「風神を[エ]」「大忌神を[オ]」に祀られたことも「紀」に記されています。

例えば、これを改変してみる……

天皇即位に際し行われる特別の大嘗祭のことが初めて[ア]に見られるのは[イ]天皇の御代です。大嘗祭とは天皇が即位後、斎行の年を決められて行われる特別の[ウ]です。大嘗祭では、卜定による悠紀・主基両地方から新穀が献上されますが、[イ]天皇の御代には恒例の[ウ]でも悠紀・主基両地方から新穀が献上されていますので、制度上、大嘗祭が確立されたのは[エ]天皇の御代からだったと考えられています。律令制下の恒例祭祀のひとつである祈年祭の骨格を作られたのも[イ]天皇の御代だったと考えられています。また、「風神を龍田」「大忌神を広瀬」に祀られたことも[ア]に記されています。

アについて ウの名前について イとエの組み合わせについて など。

●『皇室』誌についても必ずみておきたい (この10%が合否を決めるかも・・・大事)

2級については、毎回確実に『皇室』誌からも出題があり、出題の割合が近年10%

そのため、『皇室』誌掲載の昨年の著名神社の式年の祭祀と神社に関する連載を見ておきたいところ

71号 二千六百年式年祭によせて「神武東征」の道を行く

- ・高千穂峰
- ・瀬戸内／難波
- ・丹生川上神社 丹生川上神社下社・上社
- ・橿原神宮

春日大社第60次式年造替 「昇き退け遷座」と「春日明神社」再興

72号 皇太子同妃両殿下、敬宮殿下神武天皇陵参拝

73号 天皇・皇后両陛下、遷御後初めて賀茂社参拝

〃 春日大社 第60次式年造替 正遷宮

74号 春日大社 第60次式年造替 御間堀

※春日大社、橿原神宮は今回の『皇室』誌から出される問題として必須の可能性があるので

●『神社のいろは(続)』については、

第2回 中世・近世

第3回 古代・中世

第4回 縄文～古墳時代・古代

第5回 中世・江戸時代

今回は、古代中心に回帰するか、あるいは近世・近代が出題されるか？
難易度は前回と同様ぐらいとみておくのがよいか。
過去問をもう一度解いておくとよいのではないか。

数珠つなぎでみておく

例) 吉田神道 いつ頃できた神道思想か

創始者…吉田兼俱 どんな特徴があるか？

三社託宣＝三社は？ その託宣の内容は？

根本枝葉花実説とはどんな説か？

…吉田家は？ 関係する神社は？ 齋場所・太元宮とは？

神祇管領長上とは？ 神祇官八神殿とは？

吉田神道の特徴を知ることが⇒古代の神祇官、近代の宮中三殿の神殿に至るまでつながっていく

1. 『続神社のいろは』について

神道史の流れ・概略を知る

神代 → 古代 → 中世 → 近世 → 近代 → 現代

○神道史の流れのなかで大きな視点で考えてみると…

- ・記紀 三大神勅（天壤無窮 宝鏡奉斎 斎庭稻穂）神籬磐境の神勅
神籬 磐座 磐境 御ト（亀ト）
- ・律令制と神祇官
- ・神仏習合と神仏分離 …本地垂迹説、反本地垂迹説
- ・社格制度の変遷 古代・中世・近代・現代
官幣社・国幣社 延喜式内社 二十二社 一宮制 総社 近代社格制度 別表神社
勅祭社 荘園制と神社（御厨）
- ・様々な神道思想の登場
伊勢神道 神道五部書 中世神道 吉田神道 三社託宣 儒家神道 垂加神道
国学 復古神道
- ・神社制度を考える上で
神祇令 御成敗式目 神社条目（諸社禰宜神主等法度） 神道裁許状
吉田家と白川家
- ・近代の神社と神道
神祇官の復興 大教宣布運動 教部省 神社は国家ノ宗祀 神社非宗教論 神社合祀

第2章 神社についてもっと知りたい

『神社のいろは』の各神社の信仰の項目で取り上げられていなかった神社について掲載。

大神神社 石上神宮 広瀬・龍田 丹生川上、香椎宮 広田神社 平野神社
梅宮大社 上御霊・下御霊 吉田神社 多賀大社 伊弉諾神宮 吉備津神社
大山祇神社 阿蘇神社 氷川神社 秩父神社 鹽竈神社志波彦神社 出羽三山
岩木山神社 水無瀬神宮

2. 『神話のおへそ（古語拾遺編）』のテキストについて

（表3 昨年の出題傾向）

- * 1級・3級で出題された問題のレベル的に中間的な問題が出題されるのでは
- * 昨年の1級、3級の問題をもう一回解いておきたいところ
- * 昨年出題された問題のテキスト箇所をチェックしておきたい

出題傾向(『神話のおへそ(古語拾遺編)』)

	はじめに	第1章	第2章	第3章	合計
1級出題	0	3	9	18	30
3級出題	0	30	—	—	30
合計	0	33	9	18	

はじめに

第1章 28～79

第2章 80～129

(ポイント)

⇒『神話のおへそ』というタイトルの本

今回は中級編…ぐっとレベルが上がる可能性が極めて高い。

ゆえに基本的には対象となるであろう第二章を徹底的に読み込んでおく
第一章よりも、第二章と第三章を必ず読んでおく。

第二章のポイントとなる言葉

氏族・忌部氏とは・神道文献＝徹底的に書誌情報と時代ごとの伝播形態を覚える・律令時代

第二章「中級編」理解のために*

忌部氏とはどんな人たちだったのか

「氏制制度」の仕組み

「服部」さんは、なぜ「ハットリ」さんなのか？

忌部氏の職能

東大寺の大仏の修理にも貢献。六国史に見える忌部

中臣・忌部論争

斎部広成について

氏文の時代

「稽古照今」と「遺れたる事」

『新撰姓氏録』の編纂

- ・高橋氏文
- ・延暦儀式帳
- ・住吉大社神代紀
- ・新撰亀相記
- ・秦氏本系帳
- ・先代旧事本紀

『古語拾遺』成立の頃の時代状況

「遺れている事」のころ

どのように受け止められてきたのか

伝本について

古代において

中世において

近世において

『疑斎』と本居宣長

「学神」として評価した平田篤胤

近代以降について

古代の律令祭祀との繋がりの中で

成立の年について

本書における本文の区分と狙い

第三章 展開編

神代の認識を理解する

天地開闢から大己貴神まで

天孫降臨

神武天皇東征と祭祀

コラム①漢風諡号について

コラム②八神殿の歴史

「人代」での関心を理解する

崇神天皇の御代から「介推の恨み」まで

コラム③三種の神器と剣璽御動座

広成の主張を理解する

遺れていること十一か条

コラム④中世以降の熱田神宮

「御歳神の祭祀」を理解する

御歳神の祭祀

●第三章のポイントとなる話題

昨年参級のポイントと比較してもう一度整理する

- ・ 天地開闢から天照大神と素戔鳴神の登場
- ・ 天岩戸隠れの段
- ・ 大己貴神の国造り
少名彦神の登場
- ・ 天孫降臨と国譲り
『日本書紀』三大神勅との兼ね合い
- ・ 神武東征と橿原の宮での即位
宮殿の造営と神々の祭祀
- ・ 崇神天皇の御代から「介推の恨み」
大和笠縫邑への奉遷
- ・ 遺れていること十一か条
- ・ 御歳神の祭祀